

2013年度 明星大学心理相談センター活動報告

小海富美代・野口茉莉子 明星大学心理相談センター

I はじめに

明星大学心理相談センターは明星大学大学院人文学研究科心理学専攻臨床心理コースの大学院生の教育研修とさまざまな相談活動を通しての地域貢献を目的としている。設立よりすでに12年が経過した。ここに当センターにおける、2013年度の活動概要について報告する。

II 相談活動

1 面接形態

当センターでは面接をその形態によって分類し集計している。その分類と内容は以下の通りである。(表1)

表1 面接形態

分類名称	含まれるもの	内容
個人面接	カウンセリング(成人)	子どもの心理的、発達上の問題について子ども自身への援助や保護者への助言(親子相談)と、主に成人以降の方を対象にしたカウンセリング
	親子相談	
集団面接	フリースペース:じゃんぼ	主に小・中学生の不登校の子どもたちへの居場所の提供および集団を通じた援助
心理検査		様々な心理検査、発達検査
発達支援プログラム	学習支援:ニッポ	発達障害をもつ小学生への個別の学習支援。及び、発達障害を見立てるための検査と面接を行うアセスメント外来
	アセスメント外来	
その他	コンサルテーション	関係機関にむけたコンサルテーション

2 面接回数

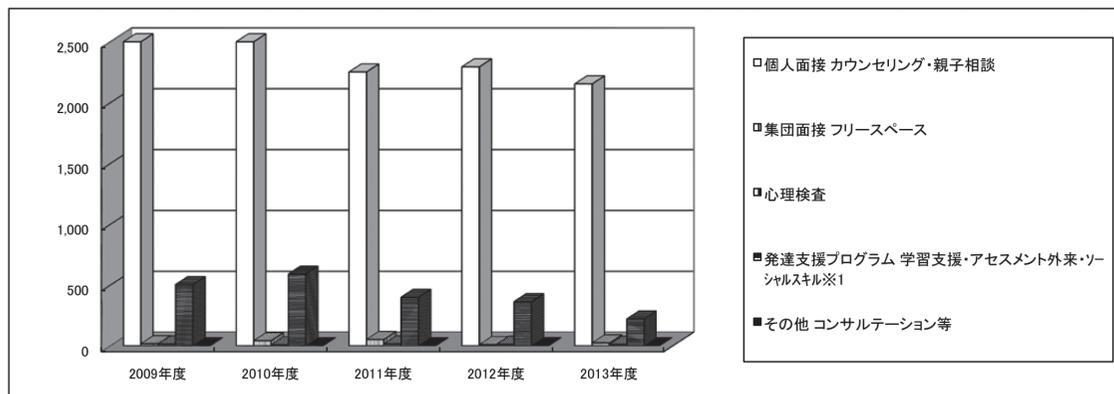
当センターでの過去5年間(2009年度から2013年度)の、年間総面接回数は表2の通りである。その推移を図1に示した。

表2 面接回数の推移

内訳		年度				
		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
個人面接	カウンセリング・親子相談	2,654	2,597	2,252	2,294	2,154
集団面接	フリースペース	17	42	52	10	24
心理検査		15	8	16	13	12
発達支援プログラム	学習支援・アセスメント外来・ソーシャルスキル※1	503	590	400	363	221
その他	コンサルテーション等	0	0	0	1	0
合 計		3,189	3,237	2,720	2,681	2,411

※1 ソーシャルスキル：2010年度末で終了

図1 面接回数の推移



ここに年間では個人面接の件数がわずかに減少傾向であり、発達支援プログラムも減少傾向にある。

2013年度の月別面接回数は表3の通りである。

夏季と冬季の休みにあわせて相談件数は一時的に減ずるが、おおむね一月200件から220件で推移している。2013年度2月は大雪の影響で相談センター閉室となることもあった。

3 来談者

2013年度の新たな来談者数を月別にまとめたのが表4である。

新規受理は、実際に来談者から申し込みのあった

月の翌月になることが多く、申し込みを直接反映する数ではないが、一月平均7件が新たに来談している。

新たな来談者の、性別・年齢を表5に示した。

来談は小・中・高生が引き続き多く6割を占めるが、年々大学生・成人の新規の来談者が増加してきている。

新規来談者の来談経路を、表5に示した。

依然「学校からの紹介」が最も多く、次いで「他機関からの紹介」「ホームページ」が多い。

18歳以下の相談内容、と学齢から新規来談者の相談傾向を見た表が表7である。

小学生の「発達のかたより」に関する相談が最も多く、次いで小学生の「アセスメント」を求め

る相談が多い。全体では「不登校」は「発達のかたより」「アセスメント」に次いで多い。

19歳以上の新規来談者の相談内容をまとめたものが表8である。

各相談内容ともに増加しているが、中でも「対人関係」が群を抜いて多い。次いで「子どもの問題」が続く。カウンセリング目的の成人の来談者が徐々に増えていると考えられる。

表3 2013年度 面接形態および月別面接回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人面接	197	185	191	203	150	160	186	195	169	169	149	200	2,154
集団面接	1	2	3	4	2	3	3	3	3	0	0	0	24
心理検査	2	1	1	0	0	0	1	3	1	0	0	3	12
発達支援プログラム	21	19	18	21	35	16	18	15	22	13	7	16	221
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	221	207	213	228	187	179	208	216	195	182	156	219	2,411

表4 月別受理面接数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013年度	6	5	8	9	6	5	7	14	6	5	5	6	82

表5 2013年度 年齢別・性別相談件数（新規）

性別／年齢	就学前	小学生	中学生	高校生	大学生・成人	合計
男	2	13	7	1	7	30
女	0	8	6	3	21	38
合計	2	21	13	4	28	68

表6 2013年度 来所経路（新規）

相談経路	2013年度
他機関からの紹介	14
学校からの紹介	23
相談員を知っている	8
相談に来ている人からの紹介	2
ホームページ	10
知人から紹介	7
その他	4
合計	68

表7 2013年度 相談内容別件数 18歳以下(新規)

主訴/年齢	就学前	小学生	中学生	高校生	合計
発達のおくれ			1		1
発達のかたより (高機能自閉症・アスペルガー・LD・ADHD他)		7	3		10
不登校		4	3	1	8
集団不適應		1	1	1	3
非行・暴力		1			1
神経症的症状	1	1	1	1	4
その他			1	1	2
アセスメント	1	7	3		11
合計	2	21	13	4	40

表8 2013年度 相談内容別件数 19歳以上(新規)

主訴	2013年度
対人関係	11
家族関係	1
自分の生き方	3
子どもの問題(発達障害不登校・問題行動・育て方など)	6
神経症的症状	4
その他	3
合計	28

Ⅲ 在籍大学院生

当センターでは、「研修員・研究員制度」を採っており、大学院生および大学院修了生がセンター長の許可を得てそれぞれ「研修員」「研究員」となっており、初めて当センターでの臨床活動が認められる制度である。すべての研究員が臨床活動を行なっているわけではない。2013年度の研修員・研究員数は表9の通りである。

これら研修員・研究員に対して、在籍する専門相談員がスーパーヴァイズを行った件数を表10に示した。

Ⅳ 年間事業報告

2013年度の各年度に行われた事業を表11に示した。

「センター事業関係」にはセンターの運営にかかわる事業が、「ケースカンファレンス・地域貢献事業関係」には各種ケースカンファレンスと地域に向けて開かれた事業がまとめられている。2013年度は2014年度に大学が創立50周年を迎えるにあたり、周年事業のひとつとして広報を行い、公開講演会を開催した。

表9 研修員・研究員在籍数

	2013年度
研修員	21名
研究員	25名
合計	46名

表10 研修員・研究員に対するスーパーヴァイズ回数（1回50～60分）

単位：回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013年度	40	32	42	37	24	27	44	43	43	31	28	40	431

表11 心理相談センター 2013年度年間事業・活動報告

	センター事業関係	ケースカンファレンス・地域貢献関係
4月	センターガイダンス 第1回センター会議 第1回研修員会議	第1回合同ケースカンファレンス 第2回合同ケースカンファレンス
5月	第2回センター会議 第2回研修員会議	第3回合同ケースカンファレンス 第4回合同ケースカンファレンス
6月	第3回センター会議 第3回研修員会議 第1回運営委員会	第5回合同ケースカンファレンス 第6回合同ケースカンファレンス
7月	第4回センター会議 第4回研修員会議	第7回合同ケースカンファレンス 第8回合同ケースカンファレンス
8月	第5回研修員会議 玩具類下見・発注 センター大掃除	第9回合同ケースカンファレンス
9月	第5回センター会議 第6回研修員会議	第10回合同ケースカンファレンス 第11回合同ケースカンファレンス
10月	第6回センター会議 第7回研修員会議 第2回運営委員会	第1回特別合同ケースカンファレンス 招聘講師：永井徹先生（首都大学東京） 第12回合同ケースカンファレンス
11月	第7回センター会議 第8回研修員会議	第13回合同ケースカンファレンス 第2回特別合同ケースカンファレンス 招聘講師：菅野純先生（早稲田大学）
12月	第8回センター会議 第9回研修員会議	第14回合同ケースカンファレンス 第15回合同ケースカンファレンス

	センター事業関係	ケースカンファレンス・地域貢献関係
1月	第9回センター会議 第10回研修員会議	第16回合同ケースカンファレンス 第17回合同ケースカンファレンス
2月	第10回センター会議 第11回研修員会議 玩具類下見・発注 研究紀要 No6 発行	第18回合同ケースカンファレンス 第19回合同ケースカンファレンス
3月	第11回センター会議 第12回研修員会議 センター大掃除	第3回特別合同ケースカンファレンス 招聘講師：滝川一廣先生（学習院大学） 第20回合同ケースカンファレンス 公開講演会開催 約100名参加 招聘講師：村瀬嘉代子先生（北翔大学） シンポジスト：京極澄子先生（日野第三小学校）、田中登志江（本学特任准教授）、福田憲明（本学教授）
年間	センター会議 全11回 研修員会議 全12回 運営委員会 全2回 センターガイダンス 全1回 研究紀要発行 全1回 玩具類下見・発注 全2回 センター大掃除 全2回	合同ケースカンファレンス 全21回 特別合同ケースカンファレンス開催 全3回 公開講演会 全1回

V おわりに

センター設立から12年が経った。相談センターとして来談者数は堅調で子どもから成人まで幅広い相談が寄せられている。その中でも近年成人の相談が増加傾向にある。7年前は3割だった成人の割合は、現在では4割に増えており、その内容も他での相談歴の長い方や医療での治療歴の長い方が増えてきた。現在の当センターが取っている主訴分類では「対人関係」にくくられてしまうが、実際は実に多種多様であり、主訴分類の見直しが検討されている。また成人にかぎらず、心理面だけでなく複雑な事情を抱える来談者も増えている。他の臨床心理士養成大学院の相談室紀要を見ても同様の報告が散見され、当センターだけの傾向ではないようである。

一人ひとりの来談者の思いと一人ひとりの大学院生の研修をマッチングさせていくのは容易なことではないが、スーパーヴァイズやカンファレンスのより一層の充実を図り、各人が臨床に向かう態度を磨くことで、よりよい「臨床の場」を醸成していければと思っている。